課題解決型高度医療人材養成プログラム
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

［取組１］医師・歯科医師を対象とした事業
（２）特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
②　高難度手術領域

整理番号	9

申請担当大学名 （連携大学名）	熊本大学 （長崎大学、岡山大学、金沢大学、新潟大学、千葉大学、京都大学） 計７大学
事業名	国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成
事業責任者	医学部附属病院　小児外科・移植外科　教授　猪股　裕紀洋

事業の概要

全国へ普及しうるモデルとして、6 大学（千葉、新潟、金沢、岡山、長崎、熊本）が各施設の症例を有効に活用し、相互補完しながら指導的施設（京都大学、国立成育医療研究センター）の協力も得て、肝臓移植外科医の養成を行うことを主目的とする。後期研修医以降の外科医を対象に共通プログラムを設定し、学会時などを利用した講習会、施設間の人的相互交流及びテレビ講義なども利用し、3 年間で肝臓移植の理念と手術及び術前後管理の知識と技能を修得させる。

同様に不足する病理医やレシピエント移植コーディネーターも、肝臓移植の専門性を重視して養成を図る。

この取り組みにより、6 大学での肝臓移植外科医の養成とレベルの均てん化をはかり、脳死臓器提供に際してはその摘出互助関係を確立し医師の負担軽減を図る。これが専門医制度につながる養成プログラムとして学会などに認知され、専門医性など安定した養成システムに波及することが期待される。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：充実を要する点等

○6 施設は特色ある肝臓移植を行っており、様々な手術を経験できるメリットがあり、効果が期待できる。
○プログラムは申請大学のほか連携ネットワーク化がなされており、３施設以上での実習が設定されている点で評価できる。
○肝臓移植医の養成は重要な課題あり、本事業の趣旨に合致している。
●毎年 4～6 名の研修者を受け入れる計画であり、十分な実地研修ができるよう、指導体制も含めた整備が必要である。
●受入れ目標人数について、6 施設での生体肝移植、脳死移植の総数から適切に割り出して算出する必要があるのではないか。
●予算の積算がやや具体性に欠けることから、今後、事業を展開するに当たり詳細に検討することが望まれる。
●比較的症例数の多い熊本、長崎、岡山が指導的役割を担い連携すると記載されているが、国内移植医療の役割分担として、更なる検討が必要ではないか。